

---

**QA2-30 東京電力福島第一原子力発電所事故以前にも、食品中にセシウムやストロンチウムが入っていたのですか。**

---

**A**

- ① 大気圏内核実験が行われていた 1945 年から 1980 年にかけては、大気中で人工放射性核種が生成され、その中でも生成量が多く半減期が約 30 年と長いストロンチウム 90 やセシウム 137 が、現在でも微量に残っています。
- ② その影響で、1960 年代には食品中にもストロンチウム 90 やセシウム 137 が微量に検出されていましたが、近年はほとんどが検出限界以下のものとなっています。
- ③ チェルノブイリ原発事故後には、ごく一部の輸入食品の中に放射性物質の規制値を超える食品が発見されましたが、廃棄されたり輸出元に送り返されたりしました。

**統一的な基礎資料の関連項目**

上巻 第 2 章 75 ページ「大気圏核実験による放射性降下物の影響」

上巻 第 4 章 172 ページ「核実験フォールアウトの影響（日本）」

---

出典：量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関する Q&A」より作成

出典の公開日：平成 24 年 4 月 13 日

本資料への収録日：平成 29 年 3 月 31 日